

2016年11月2日
マツダ株式会社

2017年3月期 第2四半期 決算発表

主な質疑応答

1. 2017年3月期 第2四半期累計の実績について総括してほしい。

2017年3月期第2四半期のグローバル販売台数は対前年1%増の77万5千台と過去最高の販売実績となりました。CX-3、MX-5/ロードスターの販売がグローバルに寄与したことに加え、新型CX-9や中国に導入した新型CX-4の販売が順調に推移いたしました。また、アクセラ、アテンザにも商品改良を実施し、これらも台数増加に貢献しております。地域別では日本、北米で台数が減少する一方で、欧州、中国、その他市場での台数が増加し、前年を上回る販売実績となりました。

財務実績は、売上高は1兆5,463億円、営業利益は883億円と、前年同期に対し376億円の減少、当期純利益は561億円となりました。連結営業利益の前年に対する主な変動は、日本での台数減少や円高が進行したことなどによるマイナス影響を、新型CX-9の導入、アクセラ/アテンザなど商品改良モデルでの収益性向上やコスト改善活動の強化等により減益影響を最小化したことによるものです。

2017年3月期通期の見通しは、グローバル販売台数は155万台と期初計画から変更はありません。日本での消費税増税延期等により販売計画を見直す一方で、好調な新型CX-4やMazda3の上乗せのある中国やオーストラリアの上方修正を織込みました。財務指標につきましては、為替前提を期初公表からUSドルを110円から102円へ、ユーロを125円から114円に修正したことにより、売上高は3兆1,500億円、営業利益は1,500億円、当期純利益は1,000億に減額修正いたしました。

2. 通期見通しを減額修正するにあたって、下期の為替対応策を教えてください。

営業利益を期初公表から200億円の1,500億円に減額修正いたしました。為替が円高に推移したため、下期前提レートを見直いたしました。その影響により、期初公表より為替が合計420億円の悪化を見込んでおります。為替によるこの大幅な悪化を、コスト改善活動の強化による170億円の改善に加え、各領域での一層の対応努力により、減益影響を最小化してまいります。

3. 米国での販売について教えてほしい。

米国では第2四半期累計実績は対前年2%減の16万台でした。クロスオーバー系車種への需要の拡大に伴いセダン系車種の販売台数は減少した一方、クロスオーバー系車種の販売拡大を図りました。クロスオーバー系車種については、6月から導入した新型CX-9が好調なうえに、モデル末期であるCX-5でも対前年で増加しております。

下期については、引き続き好調なクロスオーバー系車種やセダン系車種の商品改良モデルでの販売拡大を図ります。また、インセンティブについても、引き続き正価販売方針を徹底し、競合環境を見極めながら適切な水準を維持いたします。

以上